国立大学法人 大阪教育大学
大阪教育大学 附属特別支援学校

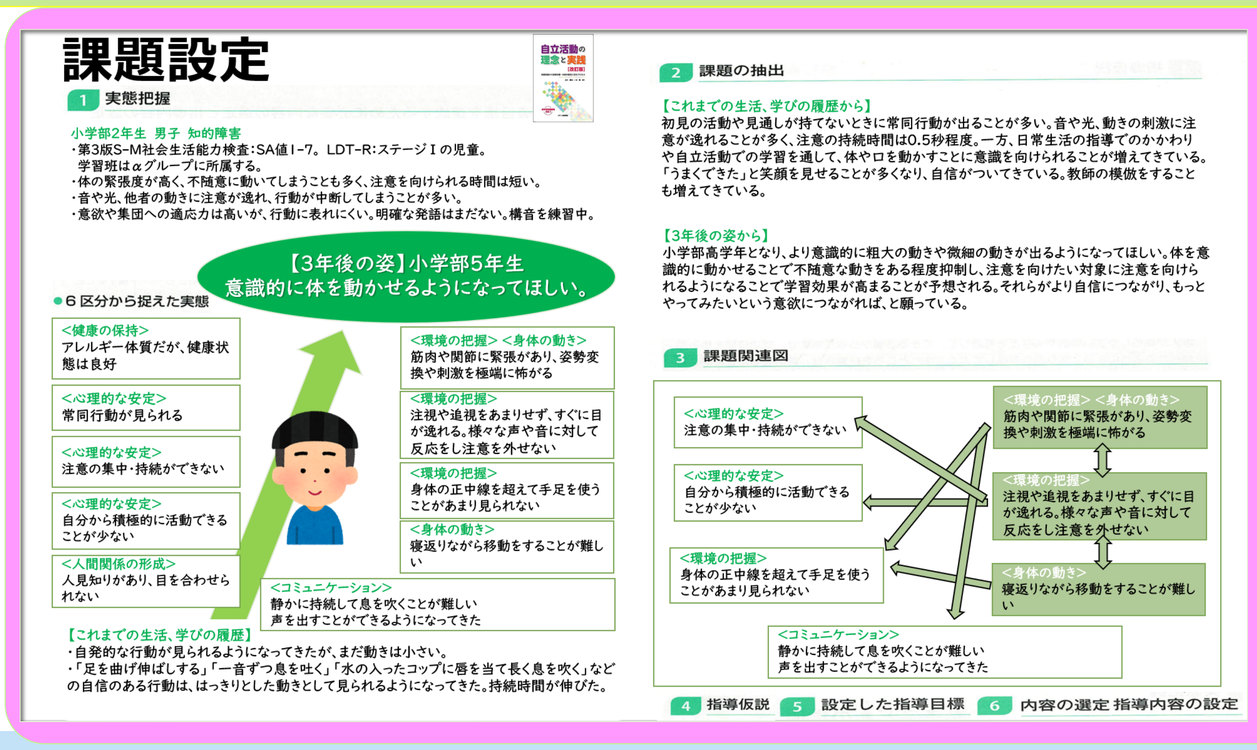
共同研究者　大河 竜介・花田 知恵・本多 克敏
早野 眞美（特別支援教育部門）

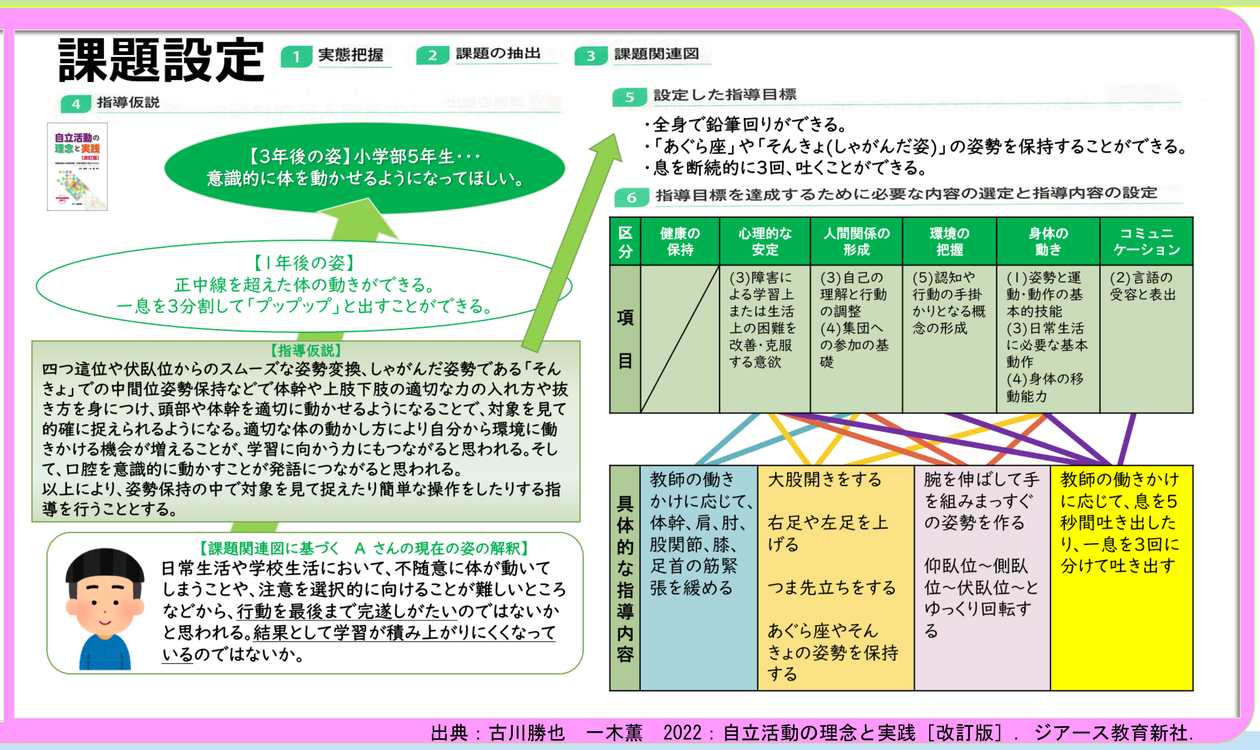
知的障害特別支援学校における 課題関連図を活用した自立活動の実践の在り方

問：自立活動に取り組み改善した姿が、日常生活や他教科での学習にも広がりを見せるのか

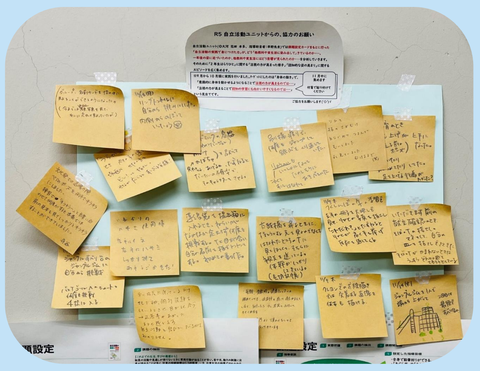
概　要

「自立活動のチェック表」を使ってアセスメントを行い、それをもとに課題関連図を作成し指導仮説を立て実践を行った。課題関連図を作成したり指導仮説を立てたりして段階を踏んで指導内容を決定したことで、より実態に即した実践となり日常生活や学習活動などでの行動の変化の様子が観察された。自立活動に取り組み改善した姿が他教科での学習でも見てとれた。課題関連図を図示すること、指導仮説を立てること、そしてそれらを共有できるような形で残しておくことが有効だとわかった。今回の事例では粗大運動の力に注力したことが日常での活動や学習活動をより充実させることにつながった。





出典：古川勝也　一木薫　2022：自立活動の理念と実践［改訂版］．ジアース教育新社.



日常や学習活動での変化の観察

９月から１月にかけての学習の様子や遊びの様子を観察したり、当該学部の教師に児童Ａの様子の変化を聞き取ったりした。

自分の名前を指さし

ジャングルジムに挑戦

ストローの先をごっつんこ

的確なアセスメントにより課題を正確に捉え、本児の実態に合った指導内容を設定することができ、そしてそれを実行できたことが行動の変化に大きく貢献したと考えられる。担任や保護者より、日常生活でも指さしがひんぱんに見られるようになり、本児の興味の対象を捉えやすくなったということが報告されている。遊びの場面では、これまでは１つの取り組みをずっとし続ける様子が観察されていたが、この時期より太鼓橋や吊り橋渡り、すべり台やジャングルジム、リングトンネルなどの6つほどの遊具を連ねるように続けて遊ぶ様子が見られだした。学習課題に取り組む際も、手元の操作性が上がり作業を完結させられる場面が増えてきた。「できた！」と称賛を求め、嬉しそうな表情を浮かべる機会も増えた。「３年後の姿」に近づいた。丁寧にアセスメントを行い課題がどう関連するのかを図示する(課題関連図)こと、そして課題関連図をもとに現在の姿から３年後の姿を見定め、そのために１年後にはどのような姿になっていたらよいのかとステップを刻んで指導仮説を立てること、こうした手順を踏んでいくことが的確な指導目標を立てる近道となり、実態に即した実践に結びつく。そしてこの道筋を残し共有できる状態にしておくことが実践の有用性の検証に貢献し、次の担当者への指導の引継ぎにもなる。今回の事例では粗大の力に注力することが日常での活動や学習活動をより充実させることにつながった。引き続き丁寧な観察を続け、実践を積みあげていきたい。